

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

吹田市立岸部第一小学校

校長 清水 厚彦

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

Ⅰ. 教科に関する調査の分析

1. 国語 全体として正答率は全国値を下回っています。

- ・記述式の問いに対して、無回答の児童の割合は全国値を上回り、無回答の児童が多いことが課題と捉えています。

①学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕の内容に基づく問題

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・漢字を文の中で正しく使うこと、日常よく使われる敬語を理解していることは全国値を下回りました。
- ・文章の種類とその特徴について理解をしていることは全国値を下回りました。

情報の扱い方に関する事項

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことは全国値をやや上回りました。

②学習指導要領に示されている〔思考力・判断力・表現力〕の内容に基づく問題

話すこと・聞くこと

- ・必要なことを質問し、話し相手が伝えたいことや自分が伝えたいことの内容を捉えることは全国値を下回りました。
- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることは全国値を下回りました。

書くこと

- ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは全国値を下回りました。

読むこと

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることは全国値を下回りました。

③課題に対しての指導改善について

- **話すこと・聞くこと**については、相手の意図や相手が話したいことの中心がどのようなことを明確にとらえる力がつくように、主語に注目し内容をまとめられるように指導していきます。また、話し合いの中で自分の考えを発表するとき、異なる意見を自分の考えに生かして、例えば「～という意見もあったが、私は・・・」「～という考えもあるが、私は・・・」といった表現が使えるように指導していきます。
- **書くこと**については、お互いに書いた文章を読みあい、具体的な感想や意見を伝え合うことを通して良さを見つけたり、良さを言葉に表したりできるようにしていく。またそれを自分の表現にいかすことができるようにしていきます。
図表を用いた資料作りに取り組んだり、読み手を意識して、わかりやすい言葉、表現、順序で書けたりすることができるように指導していきます。
- **読むこと**については、物語を読むとき登場人物の相関関係や心情がわかる描写や、読み手が想像できる描写に着目しながら読むように指導する。また、説明文を読むときは筆者が伝えたいことを要約したり、自分の考えを文章で書き表したりする授業を充実させていきます。

2. 算数 全体として正答率は全国値を下回っています。

①学習指導要領に示されている各領域の内容に基づく問題

数と計算

- ・筆算の仕方を説明した図を基に筆算の商の十の位に当たる式を選ぶことは全国値を下回りました。
- ・示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求め方と答えを言葉で記述することは全国値を下回りました。

図形

- ・正方形の意味や性質は理解ができていたが、台形や正三角形の意味や性質について理解することは全国値を下回りました。
- ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係について理解することは全国値を下回りました。

変化と関係

- ・百分率で表された割合について理解することは全国値を下回りました。

データの活用

- ・二つのグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することは全国値を下回りました。

③課題に対しての指導改善について

- **数と計算**では、日常生活で数の大きさを見積もる必要があるときに、目的に応じて大きくみたり小さくみたりして、概算できるように指導していきます。
基礎的な計算について力がついてきていることを生かし、考え方を式や言葉で表す力がつくように指導していきます。
- **図形**では、辺の長さや角の大きさに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えることができるように指導する。また、定規やコンパスを用いた図の仕方を筋道を立てて説明できるように指導していきます。

- 変化と関係**では、日常の場面に対応させながら割合について理解し、表やグラフが示す内容や数量の関係を読み取り、図形や式などを用いて基準量と比較量の関係を表すことができるように指導する。
- データ活用**では、日常生活の問題を解決するために、やグラフが示す内容を正しく読み取れるようにするとともに、データを収集し観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導する。
- 説明を求める問いかけ**「どうやって解いた?」「なんでそう考えた?」「どうしたら求められた?」を意識的に増やし、思考を説明したり文に表したりする機会を増やす。

II. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【教科・学習に関する質問】

- ・国語、算数の勉強は好きと回答した児童は全国値を上回りました。
- ・国語の勉強は大切だと思うと回答した児童は算数の勉強は大切だと思うと回答した児童は全国値をやや上回りしました。
- ・英語が大切だと回答した児童は全国値とほぼ同じでした。
- ・英語の勉強は好きだと回答した児童は全国値を下回っています。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童は全国値をやや上回りました。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童は全国値を上回りました。

【基本的な生活習慣等の質問】

全国値を上回っているもの

- ・学校に行くのは楽しい。
- ・いじめはどんな理由があってもいけない。
- ・毎日朝食をとっているかという問いに全くとっていない、ほとんどとっていない
- ・学校の授業時間以外に普段、1日当たりの勉強時間について「全くしない、30分より少ない」
- ・学校が休みの日、家で勉強を全くしない

全国値をやや下回っているもの

- 「毎日同じ時刻に寝ている。」
- 「毎日同じくらいの時刻に起きている。」

【挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感等の質問】

全国値を上回っているもの・やや上回っているもの

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになる。

全国値を下回っているもの・やや下回っているもの

- ・自分には、良いところがある。
- ・困ったときにいつでも相談出来る大人はいる。
- ・先生は自分のよいところを認めてくれている。

【改善と向上に向けて】

■一人一台端末の時代になりました。児童質問紙「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した児童は全国平均と同様に9割以上を占めています。また、学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の着実な実施に向けてICTの活用が必要不可欠とも言われています。このように今後子ども達にとって端末は、自ら学ぶために活用する文房具のようなものになります。例えば、端末を鉛筆と考えれば自分の考えを記録する道具になり、「？」と思ったことは端末を辞書にして調べることができます。またさらに一歩進んで、自分の思いを表現し、話す道具としての端末の活用も大切です。本校も児童が主体的に話し合い、課題解決する機会を増やす授業作りをめざして、研修や授業研究に取り組み、教職員の授業力向上に努めて参ります。

■人はほめられたり認められたりすることで心を開き素直な気持ちになります。また、そうしてくれた相手に対して信頼が深まり、他人に対しても優しくなります。子どもたちは毎日様々な活動をしています。個々の活動もあれば学級や学校全体での活動もあります。その活動の中で工夫したり努力したりしていますが、達成できる場合もあれば思い通りに事が運ばずに失敗することもあります。また、仲間との関係がスムーズにいかなかったり、トラブルになったりすることもあります。そのような時、懸念されるのが「何をやってもダメなんだ」「努力しても意味がないんだ」と考えてしまい、自尊感情の低い子どもになってしまうことです。

■結果も大切ですが、取り組む意欲やその過程を第一に考えて、学校でも言葉がけをしていくよう努めています。その言葉で子どもは勇気もらい、またチャレンジする気持ちになります。「もう一度やってみたらどうかな？」というだけで再び挑戦できる子もいれば、「前よりずいぶん良くなってきたね。もう一息。応援するよ！」と励ましを必要とする子もいます。他の子と比べるのではなく、その子なりに努力したことや成長したことを認め、褒めてあげることで子どもはその後頑張り続けることができるようになります。

■ご家庭におかれましては、子ども自身が主体的に活躍できる役割を家庭の中で与えたり、場を設けたりし、積極的に子どもの行動に目を向け、良さを認めることで自己肯定感や自己有用感を高めていく関わりをしていただいていると思います。今後とも引き続きよろしく申し上げます。